



TITLE:

獨占産業組織の社會的影響

AUTHOR(S):

大塚, 一朗

CITATION:

大塚, 一朗. 獨占産業組織の社會的影響. 經濟論叢 1933, 36(5): 831-852

ISSUE DATE:

1933-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130312>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第五號

第三十六卷

昭和八年五月一日發行

論叢

國有鐵道の民營化……………法學博士神戸正雄
生産力の自己運動……………文學博士高田保馬
ヘーゲル史觀の實踐的構造……………經濟學博士石川興二

時論

昭和八年度豫算より財政計畫……………法學博士小川郷太郎

研究

獨占産業組織の社會的影響……………經濟學士大塚一朗
平均利潤率再論……………經濟學士柴田敬

說苑

中心都市における工業集積……………經濟學士菊田太郎
英米兩國所得稅の特徴……………經濟學士佐伯玄洞

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

（禁轉載）

研 究

獨占産業組織の社會的影響

大塚 一朗

一、緒 言。

前世紀の末葉、八〇年代から産業上の獨占組織が獨逸に於て俄然たる勃興を示し來たり、從つて又同時にこれに對する經濟學者の盛なる論議を見ることになつた。其の中、シェツフレは一八九八年に於ける彼のカルテル論の冒頭にて、當時のカルテル流行につき、『諸勢力の自由なる運動、自由主義的國民經濟内の競争調和觀の信念が未だ一點の暗影もなく澄み渡つて見えてゐた時、青天の霹靂の如くにカルテルが出現して來た。』と述べてゐる。翻つて、大戰以來の我國に於ける獨占産業組織の急激なる興隆を願れば、右の語は又恰も我國産業界のことについて言はれたもの如き感がある。

抑々産業界に於て個々に相岐れて對立する諸企業間の獨存的自由競争を廢棄し、何等かの程度

1) Schäffle, zum Kartellwesen und Kartellpolitik, in „Zeitschrift für die gesamte Staatswissenschaft“, 54, Bd. S. 467.

に於て生産、販賣に對する獨占的統制權を確立せんとする組織の結成が一般的流行現象となつて來たのは、英、獨、米を通じ、個々の例外を除いて言へば、大體いづれも一八八〇年代からの出來事である。²⁾ 一般に資本主義的組織の發達上、これ等の諸國に比べて後れて出發した我國の産業界にも亦、右の諸例より二十數年を隔てて大戰時以後に至り、齊しくこれと同様の現象が廣く經驗されることになつた譯である。

今、社會の經濟制度が私有財産的原理の基礎に立てる限り、個々の獨立生産業者が其の本來的欲望として、一面には他の同業者の活動を束縛し他面には自己の放肆なる自由活动を確保せんとを望むのは手工業的組合時代たと資本主義的時代たるとによつて異なる所は無いのである。³⁾

然れども、個々に同業者の對立する關係に於て、彼等が右の如き本來的欲望を完全に満足せしめ能はざることは言ふまでも無い。そこで、何等かの妥協が起らざるを得ないであらう。此の妥協が現はれて、種々なる經濟制度の形態となるのであり、而して此の妥協の内容を過去に於て決定して來た根源力を如何なるものに求めるかが經濟發達に對する史觀の分岐點となると見られるのである。兎も角、此の妥協は手工業的組合時代に於ては組合制度の形態を以て現はれた。即ち個々の獨立生産業者は自己の放肆なる自由活动への欲望を犠牲にして、他面に於て他の同業者の自由活动の束縛を求めたのである。かくて、所謂獨存的自由競爭主義は當時に於ける一般的禁物となつた。總て、手工業的組合經濟組織に破綻が現はれ、近代資本主義時代に入つたのである。

2) Hobson, The Evolution of modern Capitalism, Chap. VIII. 15. Liefmann, Kartelle, Konzerne und Trust, 8. Aufl. S. 288. Tippet, Business Organization and Control. p. 302.

3) Sombart, Gewerbewesen, I. S. 82.

が、此の場合に、獨立生産業者に於ける前述の本來的欲望について現はれる所の妥協の内容は又自ら前時代のものとする形態を採つたのである。即ち自由主義的競争制度がこれである。手工業的組合經濟が遷つて新時代に入れる當初に於て、かかる獨存的自由競争主義の制度が現はれたのは個々の獨立生産業者が、飽く無き資本家の利益の追及の爲には前時代の束縛主義が本質的障害を成すことを認め、而も自己の自由活動の確保の爲には他の同業者の自由活動をも容認せざるを得ない結果と成れるに依る。然るに、早期資本主義時代が漸く終りて資本の巨大なる蓄積が起り、各個の資本家に依り、一面には相競ふて技術的生産力の止むことなき改良、強化が行はれ、他面には市場占領の爲に涯無き競争が激化し來るや、利潤追求の爲の自由競争主義は今に至る資本の利潤を低めるに止まらず、進んで資本を破壊の危険に陥らしめる作用を營むものに成つて來た。⁴⁾ 初めには資本家の經濟執行の内部の本質に最もよく適應するものたりし自由主義的競争は今や資本を滅却する害惡と化し來れる譯である。かくて、嘗つて手工業的組合時代の束縛主義を廢棄せる産業界は、ここに於て更に又自由主義的競争を廢棄せねばならぬことになつた。束縛主義と自由主義的競争とが併せ止揚されて生れたものが高度資本主義的産業界に於ける大規模の資本主義的獨占組織或は新束縛經濟の流行現象に外ならない。

獨占的産業組織の結成を齎らす、資本家の主觀的意圖が或は保護的高率關稅の利用であり、或は好景氣の搾取であり、更に又或は恐慌や不況の齎らす資本家の厄難の回避であるにしても、孰

4) Liefmann, a. a. O. S. 25.

れにもせよ、結局はそれが同業者の数の増加、企業規模の擴大強化等に基づく所の破壊的競争の回避或は緩和の欲望に歸せられなければならぬ。今日、産業界の流行的現象として我國に其の盛なる興隆を示してゐる獨占組織は嚴格には種々の種類に分れるにせよ、一括して、總てこれは高度資本主義的社會に於ける、金融資本家、産業資本家の資本家的欲望から必然的に生れ出でた產物であると言へるのである。

かくて、或は政府がかかる獨占的産業組織の結成を直接、間接に援助するについて言ふ所の理由として、資本家的利益の保護以外の事柄を挙げ、或は又資本主義制度とは全く其の範疇を別にする經濟社會招徠の道行としての意味に於て資本家以外の人々の間に獨占組織の興隆を歡ぶ者があるとしても、しかも獨占組織其のものは今日の社會に於て、資本家的利益の保護を以て其の第一義的任務として結成されてゐる儼たる事實を看過することは出来ないのである。

かくの如く、産業上の獨占組織は止むこと無き資本家的努力が、束縛的組合制と自由主義的競争制とを止揚し、其の利益追求の爲の新たな手段として結成せる歴史的產物である。それ故、此の新たな組織は、此の形態を採れる産業的企業其のものに對しては、既にこれによつて止揚されたる前記の諸制度に比較して最もよく其の利益に適應する作用を爲すものたるべきことは、一應疑無くこれを承認することが出来るのである。

然れども、今翻つて、かかる資本家的利益追求の新なる手段組織としての産業上の獨占組織を

ば、當該組織内の産業的企業の立場とは異なる他の立場から觀察すれば、これより放射される諸影響として如何なるものが認められるのであらうか。

固より、今日の經濟制度其のものの基礎に立ちて此の産業上の新組織より放射される作用を觀察する場合に於て、其の立場と成り得べきものは、此の組織を採れる所の企業の外にありても、決して一にして止るのではない。或は一國産業界に於ける生産力の消長を立場とし、或は金融資本を立場とし、或は獨占組織に對する原料供給者を立場とし、或は獨占外の獨立同業者を立場とし、其の他なほ種々なる立場に立ちて其の影響を觀察することが出来る。

然れどもここでは姑く他の一切の立場を措き、専ら獨占貨物の購買階級及び勞働階級の二つの階級を立場として、これに對する産業上の獨占組織の影響について、若干の考察を試みようとするのである。

二、獨占貨物を生産手段とする生産業者の立場から。

一概に獨占貨物の購買階級と言つても、大別して三つの範疇を立てることが出来る。其の一は獨占貨物を原料其の他廣く其の生産手段として購買する所の企業である。其の二は獨占貨物を直接の轉賣物として取扱ふ商業的企業である。其の三は獨占貨物を究極的消費の目的に購買する階級である。

今これらに對する獨占組織の作用を考察せんとするに臨み、最初に斷つておかねばならぬのは、事實上獨占組織がこれらの階級に對して如何なる影響を與へてゐるかを以て、ここに直接の問題と成すのでないといふことである。關心する所のものは、寧ろ獨占組織からこれらの階級に向つて放射される可能的作用従つて一般的作用の何たるかといふ點に外ならない。

最初に、獨占企業から生産手段を購買する生産的企業に對する影響に就いて考へやう。

獨占組織は其の可能的作用として、時間の上に於ける其の提供貨物の價格の急激なる變動を除くのみならず、なほ又、其の價格の場所的、人的均等性をも齎すのである。それ故獨占産業組織はこれに依つて、其の提供獨占貨物を生産手段とする生産業者をして、其の生産及び販賣上に、正確、緻密なる經濟計劃を立て、これに従へる行動を實際に行ふことを得せしめるものであるが、このことは當該生産企業の經濟狀態を安定するに大なる貢獻を成す。かかる主張はリーフマン¹⁾其の他多くの學者が獨占組織の辯護の爲に屢々繰返して來た說の一つである。

獨占貨物を生産の手段とする企業が、獨占産業組織より蒙るべき影響の中に、前述の如き有利なる方面を認めることは、一應それ自身として誤りではないと言へる。しかし、本文に於ては、主として、獨占産業組織の放射する影響の中に如何なる有害の方面の存するかを討ねることを以て目的としたのである。固よりこれは、此の觀察を以て獨占組織の影響に對する社會的對策を得る爲の手がかりとせんとする主觀的意圖に基く所である。

1) 2. B. Liefmann, Kartelle, Konzern und Trust. 7. Aufl. S. 136 ff.

一般に獨占組織結成の目的と成れるものは資本家的利益の確保に對して障礙となり來れる分立と競争との排除である。其の結果、獨占組織の探る所の具體的方策としては生産額を調節し、價格を統制し、營業部門販賣區域の分割的割宛等が主要の地位を占めることになる。²⁾ 固より獨占組織は其の組織の力に依つて、金融的方面に資本費を節約し、管理的方面に人件費を節約し、生産的方面に優秀なる設備を設けて劣等なる工場、乃至設備を休廢し、販賣的方面に人件的、物件的なる諸々の費用を節約し以て一般的に大に生産費を低下せしめる可能性を持たぬではない。而して、これらのことが又現實に獨占組織の具體的方策として行はれてゐる事例を屢々認めることが出来る。然れども、資本家的制度の下に於いて行はれる獨占組織の結成は、決して生産費の低下其のことを以て究極の目的とするものでないといふことを看過せざることが大切である。資本利潤の維持、増進こそ其の第一義目的に外ならない。故に前述の如き諸々の生産費節約と雖もただ其の第一義目的に對する手段として行はれるものに過ぎないのである。手段としてはかくの如き消極的方面に屬するもの以外に、尙ほ一層直接的にして、且つ行ひ易く、確實性に富める所の積極的方面が存在する。即ち、價格の維持、吊上である。たとへ獨占産業組織が其の生産費の低下に依つて提供貨物の價格引下を行ひ得べき基礎的條件を與へられたる場合に於ても、獨占組織は必しも、現に獲得しつつある價格をこれに據つて引下べき何等かの強制を受けるものではなく、況や又獨占組織に於ける生産費の低下が常に容易に實現せられ得べきものでもない。而も、他方

2) Concentration and Control, Van Hise, Revised, p. 26.

に於て獨占組織の有する價格統制力はこれに於ける本質的意義を有する。勿論これに對して、又種々なる制約の加はり來ることを無視すべきものではないが、可なり廣い範圍に於いて、價格に關する獨裁的統制力を有することは獨占組織の本質的要件である。獨占組織の有する對外的影響に關する考察上、此の點は最も重要な意義の存する所である。既に獨占組織が資本家の利益の爲に都合よき様に其の販賣價格を獨裁的に統制し得るものであるとすれば、これを一般的に見る限り、獨占貨物については、到底自由競爭主義的市場關係の下にて現はれ難き程度の高價格が屢々成立すべき可能性の存することが認められる。

故に、獨占貨物を生産手段とする生産業者は自らも亦獨占組織を結成し、或は其の他の方法を以て、其の生産手段に於ける獨占的高價格の不利益を、自己の生産物の購買者に轉嫁し去ることを得るに至らざる限りは、彼等は其の生産手段に關する獨占組織の結成の爲に、これについて自由競爭主義的市場關係の成立してゐる場合に得べき所の利益を失ふものと言はねばならぬ。更に深く考へるならば、獨占貨物を生産手段とする生産業者が自己の獨占組織其の他の方法にて得るに至るべき利益なるものは、本來、其の生産手段に就いて獨占組織が成立してゐると否とに不拘して得らるべきものであるから、既に生産手段について獨占的高價格を課せられる限り、それだけの彼等の不利は結局これを永久に回復し得ざるものと見なければならぬ。農業的生産業者は其の生産上に獨占組織を結成すること比較的困難なる爲め、肥料其の他の生産手段に關する獨占組

織に依り特殊の不利益を蒙るべき危険が殊に顯著に現はれる。剩へ彼等が人口構成上に重要な地位を占めてゐる場合に於ては、獨占産業組織に依つて放射される此の種の脅威は一國の經濟福祉上に重大なる意義を持つことになるのである。獨占貨物より起る所の以上の如き不利益は、獨占産業組織が高率の輸入關稅を障壁として、差等的價格政策を採り、國外市場に對しては所謂投賣價格 (Schleuderpreis) を以て臨み、反對に國內市場に於ては一層特段なる高價格を維持する場合に於て愈々激化して來るのである。³⁾

獨占貨物を生産手段とする生産業者が、獨占組織の結成によつて蒙る所の不利益は實に、前述の如き生産手段の獨占的高價格の維持から來るべきもののみではない。獨占組織は自己の營業上の都合の爲には、時として、從來市場に提供し來れる貨物の中にて或る種のもの販賣を一時休止し、或は又自己に於ける何等かの事情に依つて、適々特定品質の貨物を顧客たる生産業者に供給し得ざる場合に於ても、其の顧客がこれについて他の企業から供給を受けることを何等かの方法にて妨害する等⁴⁾のことが起り得ると考へられる。獨占組織がカルテル的性質のものであつて、營業部門乃至は販賣市場について分割的擔當を協定するが如き時に右の脅威は特に顯著である。

三、中間商業者の立場から。

前時代の經濟組織即ち都市經濟が近代國民經濟へと推移、變遷し來れる當初に於て其處に現は

3) Morgenroth, Die Exportpolitik der Kartelle, S. 104.

4) Vogelstein, Grundriss der Sozialökonomik, VI, Abteilung. S. 238.

れた顯著なる特徴の一は、工業生産物が其の生産の前後に於て多數の經濟主體の手を轉々移動することになつたといふ所にあると言へる¹⁾。而して此の轉々移動の仲介職能を營利の手段として自己の責任に於て營む所の中間商業者なる新階級が新たに成立することになつた。たとへ、都市經濟の時代に於ても小賣商人及び卸賣商人を見たること疑無き所としても、それは全く例外的事象であつたのである²⁾。近代國民經濟の時代に於て新たに一般的に現はれて來た此の中間商人階級の社會的職能を以て單純に、國民經濟上有害無益なるものと斷定せんとする見解がある。かくて、産業上の獨占組織なるものは、かかる中間的商業者を排除、消滅せしめた所に其の功績が認められると主張するが如き議論を見る³⁾。しかし、ここでは、單に、近代國民經濟の中に成立せる中間的商業者の階級が現實に存在してゐる事實を認め、これに對して一般に獨占産業組織が如何なる影響を與ふべき傾向の存するかを考察せんとするのである。

中間商人に對する獨占産業組織の影響を考察する者の中には、専らこれを樂觀的見地に立ちて論ずる人もある。ボニコウスキーの見解は中にも特に顯著である。

彼によれば、高度に發展せる獨占組織は中間商人に對して次の如き利益を與へる。即ち、中間商人は、これに對して取扱商品を賣渡すべき産業的企業の上に強大なる獨占組織が結成される場合には、其の取扱商品の買入價格及び其の他の條件について彼の同業者全體と全く平等の地位に置かれてゐるものであることを明かに自ら確知することが出来る。それ故、彼は自己の營業を確

1) Karl Bücher, Die Entstehung der Volkswirtschaft. 17. Aufl. S. 117 ff.

2) K. Bücher, a. a. O. SS. 125-126.

3) Steinmann-Bücher, Wesen und Bedeutung der gewerblichen Kartelle. Schmollers Jahrb. 15 Jahrg. S. 175.

實なる計算に據つて營み、徒に其の販賣上無益なる競争を試み、顧客の術策に乗ぜられて、得らるべかりし利益をも犠牲に供するが如きこと免れ得る。これは、産業的企業の上に確固たる統制が存在せず、其の爲め中間商人は各自に其の取扱商品の供給者より與へられたる仕入價格其の他の條件に就いて互に他に對する疑心を抱き、其の結果は顧客に對する關係上、相率ゐて無益なる不安定の競争狀態に陥ることを免れざる場合に比較すれば、中間商人に對して著しき利益を成すと言ふのである。⁴⁾ ボニコウスキーに依つて右の如く、中間商人の爲めに利益なりとされた所の獨占産業組織の作用は、著眼の方向を異にすれば恰もそれが、中間商業者の爲めに極めて危険なる影響として認められることになる。即ちボニコウスキーが中間商人の爲めに利益なりとせる所のものは、正に獨立職業としての商業が獨占産業組織の發達と共に如何に成り行くべきかといふ國民經濟上の重大問題と關係してゐる。⁵⁾ 而して此の問題の考察については既に多くの學者によつて指摘されてゐる如く、全く悲觀的結論に歸著せざるを得ない。即ち産業上の獨占組織の發達と共に、中間商業者の獨立的地位と其の勢力とは次第に衰へ行きて、生産業者に壓倒せられ、遂には固有の中間商業者の名を以て呼び難き地位に迄押し落されて、獨占産業者の使用人と其の本質的意義を異にせざるに至るか、⁶⁾ 甚しきは全く職を失ふまでに及ぶであらう。或は、ここに中間商人の代理店化の傾向ありといふことも出来るであらう。⁷⁾

中間商業者に對する獨占産業組織の壓迫は實に此の程度に止まるものではない。進んでは其の

4) Bonikowsky, Der Einfluss der industriellen Kartelle. S. 34 ff.
 5) Wiedenfeld, in Schmollers Jahrb. Jahrg. 1909. S. 361.
 6) Pohle, Die Kartelle der gewerblichen Unternehmer, S. 109.
 7) Hilferding, Das Finanzkapital. S. 262.

原料の買入に就き或は又其の製品の販賣に就いて、内外の市場に於いて全然、獨立營業者としての中間商人を排除するに至るのである。⁸⁾

いづれにしても、獨占産業組織の發達に伴ひ、中間商業者は先づ最初にこれに依つて、自由競争市場に於いてなせる如く生産業者の間の競争關係を利用して交互にこれを壓迫し、以て自己の爲に有利なる買入をなすの便宜と利益とを失ふのである。やがて進んで獨占産業組織の勢力が愈々擴大強化するに至れば中間商業者の獨立性は益々顯著に侵害されて、後者は其の仕入價格其他の條件に關し全く前者に對する對抗性を失ひ從來得來りし所の其の利益は今や獨占組織によつて略取されることになるであらう。

抑々、生産業者と商業者との間に於ける生産物利潤の分割關係は兩者の勢力の優劣關係如何に依つて定まるのである。⁹⁾ 今これを資本家的社會に於ける歴史的發展上に概觀すれば、初めに生産業者は全く商業資本家の從屬者に過ぎなかつた。其の後次第に勢力を伸張して、聽て對抗的地位を占める様になつた。既に獨占産業組織が結成される様になれば中間商業者を全く自己の隸屬的地位に押し落すに至るのである。ここに於いて、生産物利潤の分割關係は全く最初と顛倒し、中間商業者は結局自己の獨立的地位を維持し得べき程の利潤を享け得ざることになる。中間商人に及ぶ所の右の如き獨占組織の惡影響は、中間商人が獨占的高價格を他に轉嫁し得ざる場合に於て特に顯著に現はれる。ポールは、獨占産業組織が、從來自由競争市場にて中間商人の得來れる利

8) Grossmann, Das Akkumulations und Zusammenbruchsgesetz des Kapitalistischen Systems. S. 349 ff.

9) Grossmann, a. a. O.

益の分け前に對する嫉妬に其の成立の動機が有ると言ふ。¹⁰⁾ 獨占結成者の主觀的動機について右の如き觀察が妥當するや否やを問はず、獨占産業組織の中間商業者に對する客觀的影響としては、前述の如く、商業的利潤の幅が全く生産業者によつて統制せられ、極端に縮少せしめられるものなることを認めなければならぬ。中間商人に對して獨占組織の放射する不利益の影響は、獨占組織が中間商業的職能の介在を全然排除するに至つて極まるのである。獨占組織の結成によつて生産企業の規模が擴大、強化するに至れば、其の原料の仕入に就いて、其の製品の販賣に就いて直營機關の活動が起り、中間商業者の存在が許されざるに至る傾向の顯著に見られるといふことは近時、高度に發達せる資本主義諸國に於いて通有なる重要現象の一である。

四、消費階級の立場から。

獨占産業組織の影響を蒙る立場として、人口中に最も廣大なる部分を占めるものは消費階級の立場である。而して、消費階級に對する獨占産業組織の影響如何の問題は結局は獨占的消費貨物の價格決定の方向如何の問題に歸する。¹⁾

生産費を償はざる價格を以てする貨物の消費が繼續的に行はれれば、結局は生産力の破滅を招くに至るべき理であるが、さりとて又、何が眞に生産費を償ひ得て而も適當公正なる價格なるやを具體的に決定するは決して容易のことではない。加之、箇々の消費者の立場から見れば、價格

10) Pohle, a. a. O. S. 109.

1) Baumgarten und Meszleny, a. a. O. S. 217.

の安きだけそれだけ當面の現實的利益たるは明かである。斯様な關係の下に於いて、獨占組織が消費階級の立場に及ぼす影響は如何なるものであるだらうか。

獨占産業組織が獨占的消費貨物の價格に及ぼす影響に關し、これを樂觀的に解釋するものがある。即ち獨占産業組織は資本家的收益力の維持、恢復といふ目的の達成の爲めには組織の力に依つて諸々の方面に於ける生産費節約の手段に據るを得べく、必しも價格吊上の道を執るを要しないと言ふのである。²⁾

而して、實際に獨占組織結成の結果として常に價格の吊上が行はれざりしのみならず、反對に自由競争市場に於ける當時よりも其れが引下げられた事例が指摘されてゐる。³⁾

獨占組織が組織の力に依つて、金融費、原料買入費の上に大量調達に基く節約を行ひ、生産技術の改善に依つて製造上の技術的合理化を實現し、販賣過程の統制に依つて販賣人件費、廣告費運搬費、等を整理し、斯くて全生産費上に尠からざる節約を齎らし得ることは疑無き所であつて、學者も亦これを認めてゐる。

然れども、資本家的社會の產物たる獨占組織は、其の本質を維持する限り、生産費の節約を以てこれが究極の目的となすものではなく、収益力の維持、恢復、増進こそこれが唯一の第一義目的なること既に言及せる所である。それ故、たとへ生産費の節約が行はれても、直ちにこれに従つて價格の引下を行ふべきものとは限らず、これと共に又他の手段たる價格の引上が併せ行はれる

2) (Völkerbunds-Denkschrift) Zur Frage der Internationalen Kartellierung, S. 19 ff.

臨時産業合理局、重要産業の統制に關する法律解説二八頁

3) (Völkerbunds-Denkschrift) a. a. O.

に至るべきこと、容易に賭易き理であるのみならず、現に多くの獨占組織について事實上目撃される所である。否、今、生産費の要素として、前述の如き諸々の比例費のみに著眼せず、近代産業設備に於ける生産費の構成上に決定的影響を及ぼす可能性を有する所の恒常費について見れば、獨占組織の常用する組織的操短に依つて起る所の生産費の膨脹は到底、比例費の節約分にてこれを差引きし得ざるが如き程度に及ぶ。獨占組織の價格政策は一方に於て比例費上に節約を行ひ乍ら、他面に於て價格の維持又は引上の爲めに行ふ所の操短の結果生ずる、かくの如き恒常費上の膨脹を補償し得ん爲め、愈々以て高價格の實現に向はざるを得ぬのである。獨占産業組織の價格政策の結果として生ずる所の、休眠的過剩設備が更らに新たに生産費の膨脹を惹起し、以て反射的にこれが價格政策に影響を及ぼす結果は、累進的に高價格の實現に向つて拍車の加へらるに至るべき必然性の存することは此の場合特に注意を要するのである。

臨時産業合理局は、原價を下廻る市場價格の低下は産業行政の見地からこれを抑止すべきものであるとする見解を述べてゐる。併し、具體的に何が原價たるかは常識の想像するが如く自明のものに非るが故に、右の意見も果して何を内容とするか。端的にこれを批評するは妥當でないが、若し臨時産業合理局が設備其の他より起る恒常費も亦比例費と共に生産原價の内容を成すべきものと心得てゐるものであると假定する限り、獨占組織の價格政策取締上の見解として、前述せる同局の所見は甚だ輕卒の譏を免れざるべきものである。何となれば、資本家的企業に於て、

無計劃なる營利行動に基き過剰の休眠設備が設けられ、これより生ずる過大なる生産費を獨占組織が組織の力によつて消費階級に轉嫁せんとする場合に政府がこれを援助、支持するが如き態度と措置に出でることは果して妥當なる産業行政的見地と言はるべきか。輕卒に斷定し得べき所が無いからである。

尙ほ又、企業の計算としては、獨占組織の結成以前に於て、これを其の結成以後に比較すればより高き生産費を費し居たりとしても、其のより高き生産費は往々、而して不況、恐慌時には常に、決して自由競争市場に在りては、完全に價格として現はれ得ざりしものである。この事は獨占組織による生産費の節約が行はれても、其の事自體は消費階級がこれに依つて自由競争市場に於て得ること能はざりし利益を價格の上に與へられるものと即斷せざるが爲めに注意すべき所である。

抑々食料品産業について獨占組織の結成されることは一般に甚だ大なる困難を伴ふから、獨占組織に依つて不利益を蒙る消費者はただ有福階級に限ると言ふ者がある⁵⁾。これは諸種の財貨の價格の有機的相互影響を無視し、且つ消費財の使用について極端なる階級別的種類を立てたる見解として勿論賛すべき限ではない。ともかくも、獨占産業組織によつて、消費階級が消費貨物の貨物を通じて其の利益の上に敏感なる侵害を蒙り易きものであることは夙に多くの學者がこれを指摘せる所であり、一般的傾向としては漫にこれに向つて異説を唱へることは出來ないのである。

5) Dobletsberger, Konkurrenz und monopol in der gegenwärtigen Wirtschaft. S. 132.

五、勞働階級の立場から。

ここに勞働階級といふは産業資本に向つて自己の勞働力を賣り、其の對價を獲得して生活する者として理解される一社會層のことである。勞働階級を成す人口部分は他面には又勿論消費階級に屬するのであるが、彼等を勞働階級として觀察する本項の考察に於ては、専らこれを勞働報酬の稼得者としての意義に於てのみ論議の對象となすのである。

獨占組織の影響に關する論議の中にも勞働階級に關する影響の問題は終始就中最も熱心なる興味を以て取扱はれて來た。而も、これに對しては、前世紀の八十年代より今日に至るまでも引續き相對立する見解が行はれてゐる。

即ち、古くはクラインヴェヒターやブレンタノ等¹⁾より近くはラムカルス等²⁾に至るまで、獨占産業組織が勞働階級に對して勞働條件改善の作用をなすと論ずる者が一方に有る。これ等の論者に據れば獨占産業組織は慥に企業の爲にこれが基礎を鞏固にし、生産物の價格の急激なる騰落を急ぐものであるけれども、かかる企業上の功德は他面には又惹いて勞働階級にも反射することになり、勞賃其の他の勞働條件の改善を齎らし、併せて就業の機會を安定せしめるものであるといふのである。

即ちクラインヴェヒターは次の如くに言ふ。無統制的自由競争の波浪の中に於て興亡浮沈常無

1) Kleinwächter, Die Kartelle. S. 62. Brentano, Die Ursachen der heutigen sozialen Not. S. 24 u. 26.
2) (Völkerbunds-Denkschrift) a. a. O. S. 31.

き企業の運命は聽て又同時に勞働者の運命に外ならぬが、此の爲め彼等が一朝街頭に失業の身を曝すことになれば、止むを得ず如何なる條件を以てなりとも就職の機會を覓めざるを得ぬに至る。而して、これが勞働條件の低落惡化の原因となるのであるが、獨占組織が結成されて企業の地位が安定すれば、勞働者も亦自ら、右の如き憂き目を免れ得る様に成るといふのである。³⁾ラムモルスも亦獨占組織が恐慌時に於ても其の生産物の價格の激落を防ぎ、以て勞賃の下落を阻止し或はこれを緩和するものであると説く。⁴⁾此の外又、獨占組織下に於ける勞賃の騰貴を示す所の多數の實際的事例を擧げて、勞働階級に對する獨占組織の有利なる影響を實證せんとする者もある。⁵⁾抑ゝ勞賃の騰落は極めて多數の要素に支配されて現はれるものであるから、たとへ統計的表示を以て、獨占組織下に於ける名目勞賃の騰貴せる實際的事例を擧げたりとて、それが直ちに獨占組織の影響に基くものであると斷ずることの妥當ならざるはいふまでもない。

リーフマンも亦勞働者に對する獨占産業組織の功德を認めてゐる。即ち、獨占産業組織は勞働者に對して、勞賃額と就業との安定を與へるものであると説く。而して、就業の安定は一般に産業的企業が、優良勞働力の保持と工場設備の最高利用といふ自利の爲めに極めてこれを重要視する所であるが、獨占産業組織は孤立的競争企業の克くし得ざる方法にて此の目的を達するといふのである。⁶⁾

以上は獨占産業組織が資本主義制度の下にて勞働階級の爲に有利なる影響を與へることを認め

3) Kleinwächter, Die Kartelle. S. 62.

4) (Völkerbunds-Denkschrift) a. a. O. S. 31.

5) Utsch, Kartelle und Arbeiter. IV. Kapitel.

6) Liefman, Kartelle, Konzern und Trust. S. 101-102.

るものであるが、これとは其の立脚地を異にしながら、獨占産業組織は資本主義經濟が新らしき、一層完全なる人類經濟の組織形態に移り行くべき過渡的形態であるから、これを歓迎すべきものであるとする見解が、夙に前世紀の末葉に獨逸の勞働者新聞や勞働階級代表の政治團體に於て行はれてゐたといふことは興味ある事實である。

獨占産業組織が勞働階級に對して及ぼす影響に就ては上述せるものとは正反對の見解が又多數の人によつて主張されて來た。就中、ポールは早くから、勞働階級に對するその不利益の影響を假借なく剔抉してゐる。⁽⁸⁾

獨占産業組織によつて企業の収益力が増大すれば勞働者も亦自ら其の利益に與り得るかの如くであるが、其の實例を覓めることは甚だ難い。獨占産業組織はたとへ勞働條件を改善すべき餘悠を得たる時にも、勞働者の利益を顧慮して自發的にこれを實現するものではなく、これが爲めには鞏固なる勞働者の團結とこれに依る所の強き壓力とを必要にするのである。一般に獨占産業組織は収益力の強化の爲に孤立企業が行ひ得ざる所の種々なる方法を実施すべき能力を有す。即ち其の組織内に於いて最も進歩せる所の有利なる設備を以て必要なる生産を賄ひ、他の劣等なる設備の運轉を休止して其の生産の合理性を高めんとするが如きはこれが一例に外ならない。尙ほ又獨占産業組織は生産物の市場價格の維持、吊上の爲にこれが統制策として市場提供の減少、生産の制限を行ふものである。

7) Pohle, Die Kartelle der gewerblichen Unternehmer, S. 113

8) Pohle, a. a. O. S. 112-117.

かくの如く、從來運轉し來れる生産設備の一部を休止し、一層優秀なる生産設備に向つて其の生産を集中し、或は價格統制の爲に生産を制限する等のことが、同時に又労働階級中の一部から現に得てゐる就業機會を奪取し、少くとも又、これに向つて、然らざれば得べかりし所の機會を拒否すべき作用を成すものであることはいふまでもないのである。而して、かかる作用は恐慌時、不況時に於て特に顯著に現はれる。されど又景氣の恢復期や繁榮期にも右の如き影響が決して少いのではない。即ち、市場の貨物需要が増加し、或は既存の生産設備が能力不足を告げるが如きことが起れば、市場に於て無統制の自由競争が行はれてゐる限り、各個の孤立する企業の間には生産擴張、従つて又労働力の爭奪競争が行はれることになつて、勞賃は騰貴し、就業の機會は増加し、一般に労働條件の改善が齎らさるべき譯である。然るに獨占産業組織が成立してゐる場合には、其の組織の力に依つて、右の如き勞賃騰貴其の他のこともこれが實現を阻止されるに至るのである。

抑々、労働階級に對する獨占組織の影響を論ずるに就いては、一概に労働階級と言つてもこれを分けて觀察しなければならぬ。即ち、いつまでも獨占組織の中に雇傭されてゐるものと、獨占組織の壓力によつて就業の機會を失ひ或は又一般失業群並びに獨占外企業に就業してゐる労働者とは其の利害を共に斷することが出来ないものである。たとへ、ブレンタノやリーフマンの言ふが如く、獨占組織に依つて労働階級の爲に勞賃の騰貴、就業の安定といふことが與へられるにし

ても、かかる利益を受け得るものは單にいつまでも獨占組織の内に就業の機會を得てゐる所の、勞働階級の一部に過ぎない。勞働階級の一部の上に或は與へられることもあるべき右の如き相對的利益さへも、既に指摘せるが如く實は甚だ不確實のものであるに過ぎない。然るに他面、獨占組織が、其の組織の力に依つて勞働階級の一部から就業の機會を奪ひ、或は又これに向つて、自由競争制度の下に於て得らるべき所の就業の機會を拒否するが如き絶對的不利益が必然性を以て起こるのである。これが又、應て、獨占外の企業に於ける勞働者の就業について脅威となる。勞働階級に對して與へる獨占組織の不利益なる影響は啻に右の如く就業の機會に關するもののみではない。更らに又これと相並び或はこれに基いて、勞賃其の他の勞働條件の上に獨占組織の惡影響が現はれ來るべき可能性の存することを看過してはならないのである。

右は、勞働階級に對する獨占組織の作用に關する樂觀說に對抗して、これに因る所の有害なる作用の方面を擧げたのである。勿論、過去に於て箇々の獨占産業組織が勞働階級に對して有利なる影響を與へた事例が存し、將來に於ても亦同様の場合が起ることあるべきことを絶對に否定し去ることは出來ないのである。しかし、ここでは、専ら、産業上の獨占組織によつて勞働階級が如何なる不利益の影響を蒙るべきかの可能的、一般的傾向について考察することを目的にしたのである。

本文に所謂獨占組織は勞働力及び其の他の生産手段の買入上に獨占的勢力を獲得することを目

的として結成された組織ではなく、ただ生産品の市場提供上に獨占的勢力を有する所の組織を意味してゐるに過ぎない。しかし、かかる意味の獨占組織も間接的には勞働階級に對する企業の地位を、孤立的競争企業が相對立せる場合に比較して遙に鞏固のものたらしめることは疑無い。さなきだに、獨占組織は生産の調節、制限其他種々、勞働階級に對して不利益の影響を與ふべき方策をも自己の利益の爲に強行すべき獨特の權能を有してゐる。故に、獨占組織の興隆と共に、これを自然に放任する限り、勞働階級の利益が依つて以て益々侵害を蒙るに至るべき可能性を認めなければならぬのである。

六、結 言。

以上の論究によりて、産業的企業の利益の爲めに結成せられる獨占組織は、これを一般的傾向として見れば、他面に於いて、同一經濟社會内の他の經濟的立場に對し、種々の不利益なる影響を與ふべきものであることが明かにされた。

獨占産業組織の生起によりて經濟社會の中にかかる弊害の惹起されるについて、國家の執る態度及び方法の何たるか自ら問題としてこゝに提起されなければならぬ。

しかし、これは機會を更えて別に論ずることにする。¹⁾

1) 工業經濟研究第五冊掲載豫定
拙稿、獨占組織の發達と社會的對策(續)